



TITLE:

巻頭言

AUTHOR(S):

岩本, 武和

---

CITATION:

岩本, 武和. 巻頭言. 岩本ゼミナール機関誌 1998, 2: 3-3

ISSUE DATE:

1998-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56848>

RIGHT:

## 巻 頭 言

岩本 武和

卒業生のみなさん、お久しぶりです。今の現役のゼミ生達にも、しょっちゅう言っていることですが、こんな時代に経済学を学ぶことができるのはラッキーだ、毎日、新聞くらいは読め、株価欄で真っ黒な逆算角形がズラっと並ぶ光景など、日本に暮らしている限り、そんなにめったに見られる光景ではない。みなさんも公私ともどもそれぞれにご苦労されていることと思います。

大企業の経営陣が捕まっても、自分にはほとんど責任を感じていないらしい。かつて丸山真男が東京裁判で当時の軍部・政治家達の無責任さを題材に、例の「超国家主義の倫理と論理」を書いた時代と何も変わっていないではないか。官僚も無責任です。彼らを作り出す大学の先生は、もっと無責任です。しかし、政治家や官僚の大本営発表を現場の声と勘違い大新聞経済記者は、最低の無責任です。

というようなことを本機関誌の私の小論では書きました。短期的にはケインズ政策、長期的には円の国際化、アジア通貨危機と日本の金融恐慌の総論としては、心ある人なら多分賛同していただけるものと思います。小論の最後は蛇足ですでお読み捨て下さい。昔は危機が起こるとマル系の人々が活気づいたそうですが、今は私のようなオールド・ケインジアンがニタニタしています。というわけで、私は元気でやっています。相変わらず雑事が集中して、閉口していますけれども。昨年末に1週間だけでしたが、ロンドンに行ってきましたが、収穫が多く、来年あたりから在外研究を考えています。今の仕事を仕上げてから、「ユーロ」誕生のヨーロッパを目の当たりにしたいと思うようになりました。

昨年末のインゼミは、この「ユーロ」がテーマでした。詳しくはインゼミ担当の記録を参照していただきたいが、主力の2、3回生は、毎日のように深夜、明け方まで、高橋TAを中心に私の研究室で勉強していました。彼らについては心の底から見直しました。次回入ってくる現1回生10人は、入る前から、岩本ゼミ始まって以来の粒ぞろいだ、と今から期待しています。

4回生の就職もほとんど決まり、3年間のつきあいも終わりになろうとしています。20代前半の3年間と、2回目の20を送っている人間の3年間では、成長のスピードが異なります。酒を飲むと単なるセクハラオヤジに墮落する先生とよく付き合ったものです。感謝します。一人外交官試験に落ちて留年するゼミ生と、来年同じ外交官試験を受験希望しているゼミ生が受ければ、1ゼミから同時に2人も外交官が誕生するという凄いことになります。現役ゼミ生と卒業生の活躍が、岩本ゼミを進化させていく大きな要因になることは間違いなく、私も今後ともゼミには手を抜かず気合いを入れ続ける決心をしました。

最後になりましたが、この5年間TAとしてゼミを大いに盛り上げてくれた高橋信弘君が、この4月から大阪市立大学商学部講師（国際貿易論担当）に着任することになりました。クルーグマン＝オブスフェルトのテキスト解釈を巡っての、同君と私のディベートから、このゼミの今の活気が始まりました。高橋君の今後の研究の進展を祈りつつ、感謝の言葉にかえさせていただきます。2代目は柴田茂紀君が継いでくれる予定です。

9月15日には第1回目の「青竹会」が開催されるそうなので、またその日にお会いしましょう。

1998年2月3日